

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066-6		
自己評価作成日	令和6年12月 4日	評価結果市町村報告日	令和7年 2月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 12月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位の介護提供を柱とし、入居者様自身が「安心できる」「必要とされている」と感じられる介護支援に努めている。 ・介護支援にあたっては基本的な介護技術を軸とし、科学的な根拠に基づいた支援を実践するとともに支援内容については必ず職員と相談しながら取り決めを行っている。 ・BPSD等に対しては非薬物的対応を基本としながら、状況に合わせ主治医とも相談し対応を行っている。 ・内外の研修等を活用し、基本的介護技術の確認、ナラティブなど最新の知見等に関する知識のアップデートにも取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者の思いは理念だけでなく、建物・部屋の造りにも込められており、設立以来、「利用者ファースト」の姿勢が揺るぎなく続いています。法人理念のもとに年度目標があり、今年度は「安心できる『人』『場』と『雰囲気』」として取組まれていました。代表の思いは職員間のケアでも共有されており、「親しみ」と「馴れ合い」は別であり、言葉遣いは虐待に繋がるとして振り返りを重ねながら支援を行われています。職員間では、記録の書き方・ポイントを共有したり、グループインでパート職員にも状況共有を行う等、統一したケアに向けた取組みを行っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

1. かなり多い	4. ほとんどいない
----------	------------

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を「とことん考えとことん付き合う・地域のために地域の人々の為に感謝をもって豊かな人生をあなたと共に」としており、利用者本位の介護実践に主眼を置いている。	代表の思いのこもった理念は職員に浸透しており、「すべての行動には意味がある」として入居者の生活リズムに合わせた支援の徹底を具体例で示している。併せて年度目標も掲げ、入居者本位の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍後、グランドゴルフ大会なども復活させ、地域住民との交流機会の確保に努めている。また、職員は地域の草刈りなどの活動にも参加し構成員としての役割を担っている。	地域との関わりは理念にも表れており、事業所主催催し物の再開には地域からの要望の声もあがっていた。地域に馴染みのある職員もおられる。催事や初詣等、入居者が出向いた先では地域住民と関わる機会もある。近隣から果物等を頂いたり日常的な交流も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍後は実施実績がほぼない状況かつ不定期ではあるが学習会などの機会は提供してきた。また、夜間避難訓練等に地元消防団に協力いただき実際に利用者に関わる機会も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当該会議では事故やヒヤリハット事例についても報告を行いその後の対応や業務改善について評価を得ている。グランドゴルフ大会については地域の希望を反映しコロナ禍後の再開とした。	年6回の運営推進会議はコロナ禍でも場所を設け対面での開催に努め、事業所の取組みや入居者の日頃の様子を直接伝えてきた。地域との関わりを大切にしており、地域役員・団体だけでなく、近隣の医療機関、地域の小学校よりも参加頂き、情報交換・共有を行い、意見交換も活発である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員を招き、当施設の介護実践について周知しており、法骨の把握する地域の実情等についての情報共有をいただいている。	日頃の報告・連絡等が中心である。運営推進会議には地域包括支援センターからの参加があり、事業所の取組みや入居者の状況等について積極的に伝え、情報交換の場としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束廃止・虐待防止委員会」を設置している。定期的な研修を通し「具体的な行為」に関する事例等の学習機会を設け正しい知識の理解に努めるとともに、実践についての振り返りも行っている。	法人で組織する委員会は3ヶ月に一度及び必要時に開催している。職員は入職時及び年2回の研修の場を持ち、研修では事例や模擬にて実践勉強会を行っている。年度初めの委員会では指針を読み合わせ、年度末には指針の見直しも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に「身体拘束廃止・虐待防止委員会」を設置し、定期的な研修や事案の有無の確認を行っている。委員会の内容は全体会議でも報告を行い情報の共有にも努めている。		

グループホーム明香里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月開催される全体会議において、各職員に自己研修報告を発表させている。権利擁護に関するテーマも研修課題に指定し、学習機会の提供に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては必ず対面で説明の機会を設け、管理者が責任をもって説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度アンケート調査を実施し、ご家族様の意見の聴取にあたっている。また、アンケートの結果についてはご家族様及び運営推進会議での報告を行っている。	家族面会や電話等による入居者の状況報告は家族の意見を得る機会としている。年一回家族アンケートも行っている。アンケートで得られた結果は運営推進会議でも報告し、会議議題にもあげ、必要に応じ運営に反映させている。	入居者には様々な家族等背景もあり、それぞれに応じた対応に取り組まれている様子がうかがえました。毎月入居者の様子は書面でも報告されているようですが、入居者を共に支える立場である家族の意見をより深くうかがう場として、可能であれば担当者会議出席への声掛け等されてみてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議並びに部署会議を開催しており、提案や発言の機会を設けている。	代表者・管理者は日頃より業務に携わっており、会議の場だけでなく、職員はいつでも意見・提案を伝えることができる。個人面談もあり、個別に意見を伝えることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	通常業務の観察、定期的な面談、年に一度の上司及び自己評価などを通し状態把握に努めている。昨今の労働条件及び環境に求められる変化にも対応するため、賃金のベースアップ等にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護基礎研修の受講や法人内での研修機会は設けているが、外国人労働者の受け入れも行っており、新人職員の教育についてはその内容や準備などに課題があると認識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会や日本認知症グループホーム協会などでの参加を通じて学習や連携の機会を作っている。また、管理者は個人的に日本コンチネンス協会への活動参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内にデイサービスを併設していることから、全くの新規の方が入居される機会は少ないが、入居に際してはインテーク面接などを通して改めてアセスメントを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居による環境変化に対し予測される反応や対応策、ご家族様との交流形態などを中心に個別的な相談援助を行い、ご要望に応じメールを活用し細やかな報告も行うことで、関係性の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期段階においては、まず施設での生活に慣れることが課題となる事が多いため、不安感への軽減策を考え実践しつつ、ご家族様への適切な状態報告なども併せて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自身が安心を実感できる介護実践を柱としており、雰囲気づくりから実際のお声がけ、職員の振る舞いについても等項目に添った介護を実践し関係性の創造に日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、文書と写真によるご報告に加え、全てのご家屋様ではないが、特に遠方のご家族様などには、情報使用の同意のもと、写真や動画をお送りするなど生活の様子を報告するなどの対応を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスからのご姉妹の訪問や自宅への外泊や訪問など、本人様やご家族様の求めに応じ、積極的に行っております。	入居者は地域住民が殆どであり、入居以前はデイサービスを御利用だった方も多いため、事業所を通じた馴染みの関係もある。家族との関係も希薄にならないよう取組んでおり、家族との外出等も歓迎している。買い物等、これまでの生活習慣での希望がある際にはできるだけ継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動やレクリエーション等を通じた日々の交流に加え干し柿づくり等の生活文化活動を通じた共同作業などの機会を作るなど関わり合いの機会を創設している。		

グループホーム明香里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所ではご逝去による退所がほとんどであるが、退所後も法事に際するご挨拶などに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の認知機能の重度化により明確な意向確認が困難な状況にはあるが、部署会議などを通し、様々な角度から提供している支援のあり方を検討し、支援内容などの方向性を決定している。	入居者の身体状況や認知機能等によりそれぞれではあるが、希望・意向を積極的に表すことのできる入居者は現在少ない状況である。これまでの生活歴等や家族にも確認し、好まれること等ができるだけ継続できるような支援に取り組んでいる。	現在の状況は言葉で思いを表す方も多くないようでした。生活の中の場面で、例えば2種類の飲み物から好みを選んで頂いたく等、小さな選択の場面作りも試みてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに際する情報収集だけでなく、ご家族様との面会などには状況に応じてスタッフも立ち合い、ご本人様とご家族様のナラティブに触れる機会を意識して作るなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活は単調になりがちだが、変化やリズム、静と動のメリハリを持たせるよう活動や関わりを持っている。ADLの低下については自立の可能性を見極め、支援方法の統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より支援の在り方については必要に応じ部署会議による協議を経てご家族様への説明や承諾を頂きながら取り決めている。計画作成にあたってはこれらの経過を踏まえ実状に即した内容で作成をしている。	モニタリング・カンファレンスは管理者を中心に職員の見解も参考に、細かい点は毎月の部署会議で意見を出し合う。家族の見解も確認し、代表・ケアマネージャーで現状に即した介護計画を作成している。介護計画の変更点等は、グループライン等も利用し全職員に周知している。	介護計画は、共に支える事業所・職員・家族・関係機関等が共通理解を持ち支援に繋げることで、ケアの質の向上・均一化に繋がるものと考えます。担当者会議等を利用し、支援に基づく理念や法人の思い等を共有できる場作りの工夫に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については昨年度よりICT化し情報へのアクセスが容易になった。また、重要な案件については個人情報に留意した形で電子的なツールを用い即時的かつ確実な情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナの影響により、外部の方との接触にはナーバスになっていたが、5類移行後はご家族様の意識変化もあり、引き続き感染対策に留意しつつ外出や外泊についても柔軟に対応している。		

グループホーム明香里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方の就労、消防訓練や交流事業への参加、介護予防事業などを通し、職員が地域の方と顔なじみとなる事で地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員がかかりつけ医への受診を行っている。また、状態に応じた予定外の受診にも対応し、適切な医療提供に努めている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、その他専門医受診も職員による通院介助が殆どである。急を要する受診も職員が付き添う。必要に応じ家族の同席を依頼することもある。看護スタッフも勤務している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では看護スタッフも他の介護スタッフと同じ業務をこなしているため、日頃から連携を図ることができている。情報に応じ各種処置など必要な医療支援も即時性をもって対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者に入院治療が必要となった場合は、定期的に病院に連絡を取り情報の共有及び早期退院に向けた調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とは、入居当初から終末期のご希望についての意向を伺っており、意向が変化することも踏まえ定期的な確認を行っている。担当医とは状態に応じ情報共有を行い判断に資するご家族様への説明やサポートをいただいている。認知機能の低下から本人様の意向聴取が十分にできていないことが課題。	入居時に事業所での対応等を説明し、家族の意向を確認している。実際にその時を迎える際には家族・医療機関等と話し合いを重ね、入居者にとってよりよい状況となるよう支援に取り組んでいる。入居者それぞれのかかりつけ医も異なるため、個々に対応している。医療措置が必要となった際には入院となる例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は消防署の職員を招き、実践的なCPR訓練を行うなど、定期的な技術の研鑽機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営基準に基づいた所定の訓練を実施しており、火災訓練においては地域住民や消防団の参加、BCPに基づいた訓練においては連携病院への避難など協力体制を構築している。	定期的に訓練を行っている。夜間想定避難訓練では、消防署・地域消防団より講評を頂き、振り返りの機会も持った。立会い頂いたことで、避難経路や入居者の見守りの必要性等を伝えることができた。水害を想定した訓練も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念に基づいた介護実践において、直接利用者と接する際の言葉かけはとても重要と考えている。「親しみ」と「馴れ合い」は異なるものと考え敬語を原則とした支援を徹底している。	馴れ合いは虐待に繋がるとの代表者の考えで、親しみを持つ中にも敬語を原則としており、定期的に振返りの機会を持っている。来所される御家族が耳にして不快に思われないよう、日頃から言葉遣いへの配慮を行っている。夜間ポータブルトイレを利用される方もおられるが、昼間は脇に寄せたり布を被せる等、入り口からの視線にも配慮している。オムツ交換の際には外からの視線にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知機能の低下から本人の了解や判断を仰ぐ機会が少なくなり、容易に指示的な声掛けに陥ることを念頭に置き、「○○いたしませんか？」等、相手がNOと返せる質問を行うよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など状態や希望に合わせられるものはこれに沿った支援を実践しているが、起床や就寝時間、食事など集団生活の中で、一定の流れの中に合わせていただいているものも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOや季節に合った服装を心がけている。ご自身で衣類の選択が可能なお方にはご自分で選んでいただく事もあるが、極少数でほとんどの場合職員が選定している現状。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、食材の用意や盛り付けはほぼ職員が行っている現状である。食後の食器洗いや食器拭き作業は家事活動として利用者様にも参加いただいている。	季節の食材・野菜もふんだんに使い、調理室で職員手作りの食事・おやつを提供している。刻み・ミキサー食等、個別対応は事業所で行っている。季節の行事食もある。切り干し大根や干し柿作り等では入居者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた食形態及び介助方法を検討し、必要なカロリーや水分量が確実に摂取できるよう適切な支援を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則として毎食後の口腔ケアを実施している。状態に応じスポンジブラシなど歯ブラシ以外の用具も使用するなど清潔の保持に努めている。		

グループホーム明香里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導の中から膀胱容量や排泄周期を把握し、実際の排泄の時間や有無、量、性状などの記録と照らし合わせ自立した排泄を念頭に置いた支援を行っている。	安易にリハビリパンツやオムツへの移行はせず、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。現在は定時誘導も増えている。自立に向け、日中だけでなく夜間・朝方の量の変化等も部署会議で情報共有を行い、「予見したケア」を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレク・散歩といった運動機会に加え、フルーツや発酵食品、オリゴ糖などの摂取を促し腸内環境の改善にも取り組んでいる。また、個別には投薬や摘便等の処置により排泄のコントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則二日に1回のペースで入浴は行っており、個々の希望に沿った形とは言えない。体調に起因するものや拒否がある場合は、夜間や翌日に入浴を回すなど柔軟な対応をとっている。	一日おきの入浴を基本とした支援を行っている。午前中が中心であるが、一部夜間の入浴の方もおられる。現在は殆ど入居者において全介助が必要となってきたが、できるだけそれぞれの力を活かすような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前述のとおり、個々の状態にあわせ一日の中で「動」と「静」のメリハリをつけつつ、夜間の就寝のため可能な限り日中は活動的にお過ごしいただいている。しかしながら日よつての波も大きく思い通りにはいかない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として職員が受診に同行しており、処方段階から関りをもって服薬支援にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事活動やレクリエーション、生活文化活動や行事ごとを通して個々の生活歴や嗜好に合わせた楽しみの提供を行うことができていると考える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合は可能な限り外出の機会も作っているが、施設周囲には商業施設がなく、多くの場合施設周囲の散歩が主になっている。	希望による事業所周辺の散歩は日常的に行っている。家族との外出・外食等も見られる。買い物を希望される方もおられ、職員と出向くこともある。催事や季節の花見、ドライブ等にも出向く。	

グループホーム明香里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところお一人ではあるが、ご自分の財布を持ち、必要や求めに応じてお買い物などを行ってられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話でのやり取りは支援することがあるが、できる方は少数。 また、認知機能の低下からすべての求めに応じることは困難な場合がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設デイルームは東側に面しており、日差しが入りやすいため、室温や光に関しては特に留意して配慮している。また、壁画などを作成し季節感を目で感じていただけるよう工夫を行っている。	冬でも陽射しがあれば暖かいデイルームには畳敷きスペースもあり、日中はデイルームで過ごす入居者も多い。日中の活動時に使う道具も、誤飲や歩行の妨げにならないよう整理整頓に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には複数のソファを設置し、その時々で自由にお座りいただいているが、定位置が慣習化している。単独で移動できる方は日中居室に入られることもあるが基本はデイルームでお過ごしになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋によって差はあるが、原則として馴染みの家具などの持ち込みは自由に行っていただいている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。ポータブルトイレを利用される方もおられるが、ベッドの奥に置いたり布を被せる等、配慮もみられる。居室には手芸品等、入居者のこれまでの趣味を感じる物も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置などを表示し、居室前には顔写真を掲示するなど視認性を高めた配慮を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム明香里

作成日 令7年2月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者の認知機能や心身状態が重度化する中、「業務優先」になりやすい傾向がある	支援方法の「在り方」を立ち止まって見直してみよう	①日々のミーティングや会議などを通じオープンに「在り方」について議論を行うことで支援を見直し様々な正解を全職員で模索するプロセスに重きを置く ②支援を再構築するプロセスが当たり前であるという風土を醸成する ③支援の選択肢や引き出しを増やすため、研修等への参加を促しより質の高い支援の構築に努める	① 1か月 ② 3か月 ③ 1年間
2		利用者自身が「自己選択」できる機会・場面が乏しい	小さなことから「自己選択」の機会を創造し提供しよう	①なぜ自己選択を行う機会を創造すべきなのか、尊厳の保持などの観点から取組の意義を職員間で共有する ②下記二点について実践する ・移動などの際行動を選択頂けるよう意識した声掛けを行う ・10時のドリンク提供の際にメニューによる飲み物の選択機会を作る ③上記実践について振り返りや評価を行い新たな発想や取組が自然に創造される風土を醸成する	① 1か月 ② 1か月 ③ 1年間
3		ご家族様との関係性の構築は十分とは言えない。より深い利用者理解のため、また、支援内容を理解いただくための取り組みが必要	ご家族様との交流機会の中で目的を持った情報交換を行い職員間で共有しよう	①利用者の理解度やご家族様との関係性を整理し、弱点を探る ②面会や様々な報告時、を通じてどんな情報を聞き伝えるべきか職員間で意思を統一する ③担当者会議を開催し、意見交換の機会を作る ④定期的に得られた情報や取り組み状況を振り返る機会を作る	① 3か月 ② 3か月 ③ 1年間 ④ 1年間
4					